

# 公益財団法人やまがた産業支援機構

## 定 款

### 第 1 章 総 則

#### (名 称)

第1条 この法人は、公益財団法人やまがた産業支援機構と称する。

#### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を山形県山形市に置く。

### 第 2 章 目 的 及 び 事 業

#### (目 的)

第3条 この法人は、県内中小企業等の経営基盤の強化、経営の革新、創業の促進、技術・研究開発、人材の育成等に関する支援を総合的に実施することにより、県内中小企業等の振興を図り、もって県内産業の発展と地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

#### (事 業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 経営に係る相談、助言等の総合的支援に関する事業
- (2) 創業及び新事業展開に関する事業
- (3) 製品開発及び販路開拓に関する事業
- (4) 取引のあっせん等に関する事業
- (5) 国際展開の支援に関する事業
- (6) 設備等の貸付及び譲渡に関する事業
- (7) 資金の助成及び債務保証に関する事業
- (8) 産業分野における人材の育成及び確保に関する事業
- (9) 事業再構築等に関する事業
- (10) 企業の振興に係る各種情報の収集及び提供に関する事業
- (11) 産学官連携促進に関する事業
- (12) 技術の高度化、研究開発及びその成果の事業化に関する事業
- (13) 工業材料及び製品の試験、分析及び加工に関する事業
- (14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、山形県において行うものとする。

## 第 3 章 資 産 及 び 会 計

### （財産の種類）

第 5 条 この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の 2 種類とする。

- 2 基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めた財産とする。
- 3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。

### （財産の管理及び運用）

第 6 条 基本財産は、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならないが、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を要する。

- 2 この法人の財産の管理及び運用は、理事長が行うものとし、その方法は、理事会の決議により別に定める。

### （事業年度）

第 7 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

### （事業計画及び収支予算）

第 8 条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

### （事業報告及び決算）

第 9 条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を得なければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 正味財産増減計算書
- (5) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号、第 4 号及び第 6 号の書類については、定時評議員会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

- 3 第 1 項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に 5 年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

#### (公益目的取得財産残額の算定)

第10条 理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則（平成19年内閣府令第68号）第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第3項第4号の書類に記載するものとする。

## 第 4 章 評 議 員

#### (評議員の定数)

第11条 この法人に評議員7名以上12名以内を置く。

#### (評議員の選任及び解任)

第12条 評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下、「一般法人法」という。）第179条から第195条の規定に従い、評議員会において行う。

2 評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

(1) 各評議員について、次のイからへに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

イ 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族

ロ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ 当該評議員の使用人

ニ ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの

ホ ハ又はニに掲げる者の配偶者

ヘ ロから二までに掲げる者の3親等内の親族であって、これらの者と生計を一にするもの

(2) 他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイから二に該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1を超えないものであること。

イ 理事

ロ 使用人

ハ 当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者

ニ 次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者

① 国の機関

② 地方公共団体

③ 独立行政法人通則法第2条第1項に規定する独立行政法人

- ④ 国立大学法人法第2条第1項に規定する国立大学法人又は同条第3項に規定する大学共同利用機関法人
- ⑤ 地方独立行政法人法第2条第1項に規定する地方独立行政法人
- ⑥ 特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であつて、総務省設置法第4条第15号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

### （評議員の任期）

- 第13条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
  - 3 評議員は、第11条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

### （評議員の報酬等）

- 第14条 評議員は無報酬とする。
- 2 評議員には、その職務を行うために要する費用を支払うことができる。
  - 3 前2項に関し必要な事項は、評議員会の決議により別に定める「役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程」による。

## 第5章 評議員会

### （構成）

第15条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

### （権限）

第16条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分又は除外の承認
- (8) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

### **（開 催）**

第17条 評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

### **（招 集）**

第18条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

### **（議 長）**

第19条 評議員会の議長は、当該評議員会において出席した評議員の互選により選出する。

### **（決 議）**

第20条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 評議員に対する報酬等の支給の基準
- (3) 定款の変更
- (4) 基本財産の処分又は除外の承認
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第24条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

### **（決議の省略）**

第21条 理事が評議員会の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

### **（報告の省略）**

第22条 理事が評議員の全員に対して評議員会に報告すべき事項を通知した場合において、当該事項を評議員会に報告することを要しないことにつき評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該事項の評議員会への報告があったものとみなす。

### **（議事録）**

- 第23条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に記名押印する。

## **第 6 章 役 員**

### **（役員の設定）**

第24条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 7名以上12名以内
  - (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とし、3名以内を専務理事又は常務理事とする。
- 3 前項の理事長をもって一般法人法上の代表理事とし、専務理事及び常務理事をもって同法第197条において準用する同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

### **（役員を選任等）**

第25条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれてはならない。
- 4 監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びにこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。
- 5 他の同一の団体（公益法人を除く。）の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある理事の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

### **（理事の職務及び権限）**

第26条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、専務理事及び常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長、専務理事及び常務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

### **（監事の職務及び権限）**

第27条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

### **（役員任期）**

第28条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了までとする。

4 理事又は監事は、第24条に規定する定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

### **（役員解任）**

第29条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

### **（役員報酬等）**

第30条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める「役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程」に従って算定した額を報酬等又は費用として支給することができる。

### **（損害賠償責任の免除）**

第31条 この法人は、一般法人法第198条において準用する同法第114条第1項の規定に基づき、理事又は監事が行う職務につき善意でかつ重大な過失のない場合において、任務を怠ったことによる理事又は監事（理事又は監事であった者を含む。）の損害賠償責任について、法令の限度において、理事会の決議により免除することができる。

### **（責任限定契約）**

第32条 この法人は、一般法人法第198条において準用する同法第115条第1項の規定に基づき、外部役員（この法人の理事又は監事であって、代表理事若しくは業務執行理事又は使用人でなく、かつ、過去にこの法人の代表理事若しくは業務執行理事又は使用人となったことのないものをいう。以下この条において同じ。）の任務を怠ったことによる当該外部役員（外部役員であった者を含む。）の損害賠償責任について、当該外部役員が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失のないときは、10万円と同法第198条において準用する同法第113条第1項に規定する最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を外部役員と締結することができる。

## 第 7 章 理 事 会

### (構 成)

第 3 3 条 理事会は、すべての理事をもって構成する。

### (権 限)

第 3 4 条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、専務理事及び常務理事の選定及び解職

### (招 集)

第 3 5 条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

### (議 長)

第 3 6 条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。ただし、理事長に事故があるときは、出席した理事の互選により定める。

### (決 議)

第 3 7 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第 1 9 7 条において準用する同法第 9 6 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

### (報告の省略)

第 3 8 条 理事又は監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要しない。

2 前項の規定は、第 2 6 条第 3 項の規定による報告については、適用しない。

### (議事録)

第 3 9 条 理事会の議事録については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 前項の議事録には、当該理事会に出席した理事長及び監事が記名押印する。

## 第 8 章 職 員

### (職 員)

第 4 0 条 この法人に、職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

3 職員の事務分掌及び給与等に関する必要な事項は、理事長が別に定める。

## 第 9 章 定 款 の 変 更 及 び 解 散

### （定款の変更）

第 4 1 条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第 3 条、第 4 条及び第 1 2 条についても適用する。

### （解 散）

第 4 2 条 この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

### （公益認定の取消し等に伴う贈与）

第 4 3 条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併によりこの法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から 1 箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成 1 8 年法律第 4 9 号。以下、「公益認定法」という）第 5 条第 1 7 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

### （残余財産の帰属）

第 4 4 条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益認定法第 5 条第 1 7 号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

## 第 1 0 章 公 告 の 方 法

### （公告の方法）

第 4 5 条 この法人の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報による。

## 第 1 1 章 補 則

### （委 任）

第 4 6 条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する必要な事項は、次に掲げる重要な事項を除き、理事長が別に定める。

ア 重要な財産の処分及び譲受け

イ 多額の借財

ウ その他理事会に付議すべき事項として理事会が定めたもの

## 附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号。以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第7条の定めにかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の最初の評議員は、次のとおりとする。  
阿部慎一、五十嵐幸枝、伊藤明彦、齋藤俊勝、佐藤日吉、庄司正人、松田芳徳  
原田啓太郎
- 4 この法人の最初の理事、監事は次のとおりとする。  
(1) 理事 安房毅、工藤誠、小松幸勇、清野伸昭、長谷川吉茂、森谷裕一、  
矢口信哉、山本惣一、結城章夫  
(2) 監事 奥山享、長谷川俊一
- 5 この法人の最初の理事長は森谷裕一、最初の常務理事は工藤誠とする。

## 附 則

この定款は、平成25年5月23日から施行する。

## 附 則

この定款は、山形県知事に対する届出の日（令和3年7月1日）から施行する。

## 附 則

この定款は、令和5年3月28日から施行する。

## 附 則

この定款は、公益財団法人山形県企業振興公社と公益財団法人山形県産業技術振興機構の合併が効力を生ずる日から施行する。